

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	藤井電工株式会社佐保L棟 新築工	階数	地上2階建て
建設地	兵庫県加東市佐保15番11	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条地域	平均居住人員	XX 人
地域区分	5地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年4月 予定	評価の実施日	2023年5月7日
敷地面積	37,089 m ²	作成者	山中 隆史
建築面積	2,640 m ²	確認日	2023年5月8日
延床面積	4,131 m ²	確認者	山中 隆史



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.3

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>建物については一次エネルギー消費量BELmが低くなるように省エネ性能に配慮すると共に将来の更新性に配慮したゆとりある計画とした。また、敷地内には緑地を設け、周辺環境に配慮した。</p>	<p>その他</p> <p>特になし。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>事務所エリアには適切な開口部面積を確保し、自然光の取り入れに配慮している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>階高=4.8m、壁長さ比率=0.1未満とする事で空間のゆとりを確保する共に将来への更新性に配慮した。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>敷地周囲に緑地を配置した。また、3面の道路面には既存の樹木を残し、自然環境の保存と周辺環境に配慮した。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>省エネ性能を考慮し、空調設備や照明設備の省エネ性能に配慮した。また、外壁はALCを採用し、断熱性能を高めるように計画した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>内装の下地にはLGSを採用し、部材の再利用に配慮した。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>駐車場を十分に確保した。また、敷地中央にメインの車路を東西に通す事で、動線分離と利便性に配慮した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される